

KSKP

NPO法人

とことこニュース 31

今年も暑い夏が過ぎて、過ごしやすい季節になりましたね、皆さんお元気ですか。

NPO法人とことこ理事長 中山 君江

皆様お元気ですか。今年の夏は、集中豪雨、そして地震と色々ありましたが大丈夫でしたか？

被害を受けた方に心より御見舞い申し上げます。本当にどうなっているのでしょうか。いつもいつも、ご挨拶させていただくとき、今回は何か良いことがあったかなと探しながら文を書くのですが、良いことは少なく、ため息が出ることばかり目立ちますね。でもうれしいニュースが飛び込んできました。

アメリカ第十三回バン・クライバーン国際ピアノコンクールで全盲の辻井伸行さん(二〇)が優勝されました。優勝者は二人、なんともう一人も中国人と言うことでアジアでは初の快挙だったようです。私も全盲ですので、久しぶりに心うれしくなりました。さて今度はおなじみのいやなニュースです。

新型インフルエンザがやはり、皆さんの暮らしにもいろいろな影響があったことと思います。この秋は用心するように警告されています。栄養のあるものを食べて、手洗い、うがいを今から癖つけて、マスクと消毒液も準備してウイルス菌に負けないようにしましょう。

しかしなんとと言っても今年のニュースで一番腹が立つのが、第三種郵便の割引制度の悪用ですね。初めは障害者団体が関わっているような言われ方をされていましたが、郵便局の役職ある人から厚生労働省のエリートまで加わったの企みごとでした。陰では国会議員も入っているとかいけないとか・・・。

障害者自立支援法もダシにしているとかで、一生懸命生きている障害者をなんだと思っているのでしょうか。守ってくれないといけない立場の人から悪いことをされると、何を信じればいいのか。行政も正しく管理して下さい。

この「とことこニュース」も第三種郵便の割引制度のおかげで、より多くの人に障害者の現状、がんばっている活動を見ていただいて、一人でも障害者が地域で暮らしていけたらと啓発にがんばっております。

この割引制度は動けない私共にとってはなくてはならないものです。一部のお金もうけのために使われることは、断じて許せません。行政も正しく管理して下さい。



reasonable accommodation

副理事長 坂上 正司

奈良県で今春、校長と教育委員会が車いす利用者の少女の中学入学を拒否するという事件が発生しました。

理由は「校舎がバリアフリー化されていない」ことでした。以前に比べれば障害を理由にした入学拒否事件は減ってきましたが、車いす利用をターゲットにした事例は久しく耳にしていなかった。で耳を疑いました。ましてやバリアフリー新法の時代に何をとんちんかんことを言っているのかと思いました。

入学拒否事件と言えば私の記憶の中では、私の卒業した高校・大学の後輩のMさんが市立尼崎高校に同様の理由で入学を拒否されて以来だと思っています。

Mさんは一年間の裁判闘争の後、勝訴して入学を認められましたが、熟慮の上、関西学院高等部を受験して合格、一年ぶりに高校生になりました。私もMさんの浪人中に、関学大学祭企画で行われた彼の入学闘争を支援するためのトークショーの司会をやらせてもらったことを懐かしく思い出します。Mさんは裁判中の一年間を、受験勉強だけでなく、自分の進路を深慮することで有効に使ったと言えるでしょう。

その一方、一部の尼崎市議会議員がMさんの関学進学を受けて、「入学を認めてやったのに無礼な奴」という内容のコメントを出

していたようですが、このような問題の本質を理解しない発言をするからこそMさんを選んでもらえなかったんだと反省しこそすれ、これでは恥の上塗りと言えるでしょう。奈良県の事件も数ヶ月で裁判が決着し、少女も今では希望の中学へ通学しているようですが、車いす利用者の入学という、もう十六・七年前に決着が付いたはずのことがぶり返したことに少なからずショックを受けています。

さて、私と学校の関わりについて少し触れておくことにします。私は一九八一年一月、関学高等部一年の時、ラグビー部の試合中の事故で頸髄を損傷、四肢麻痺になりました。一年ちよつと入院しましたが、顎コントロール電動リクライニング車いすを利用するようになった秋頃、復学の話が持ち上がりました。

私自身は入院中もラジオやテレビで学習は続けていましたが、いざ復学の話となると、緊張したことを覚えています。私の復学の話は父と学校と主治医の間で進められました。

学校側は受け入れ賛成は三分の一程度でしたが、主治医が「重度の障害があっても高等教育を受けることはできる」と強く主張してくださったことで復学が決まりました。

私の主治医は、高校への復学だけでなく、高等教育Ⅱ大学・大学院への進学まで想定されていたようです。当然二十数年前の話ですから高校の設備の不備はありましたが、そこは知恵を出し合いました。週に一、二度は二階へ上がる必要があってもクラスメイトに担いでもらっていました。

社会資源は少なくても、できない理由をあげつらうのではなく、

どうすればできるのかを考える方が前向きで面白かったです。

このように、社会資源のないところで支援を行うときにはまず、本人の意思、希望、ニーズを明確にして、それを肯定的に実現していくことが重要だと思います。これは、まさに地域自立支援協会の理念そのものです。しかし、宝塚市の現状は残念ながらそれとはかけ離れたものになっています。

構成メンバー三十二名中、障害当事者は一名しかいません。三つの専門部会（「けんり・くらし部会」、「しごと部会」、「こども部会」）でみても、合わせて二名の障害当事者がいるだけです。当然、そこで話し合われる内容は、「支援者がやりたい支援」についてのみにということになります。

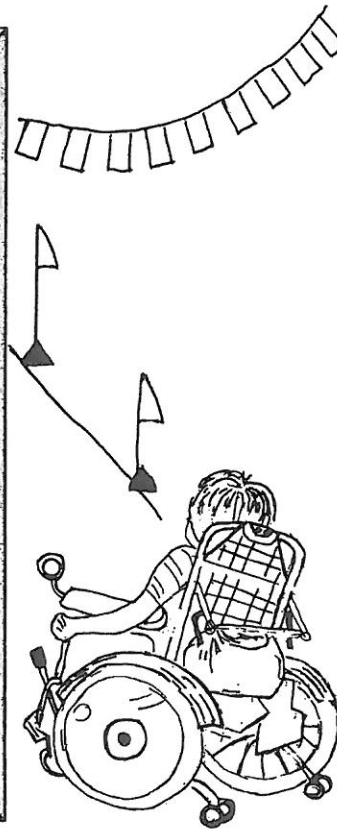
私が参加している「けんり・くらし部会」でも、初回にあげてきたテーマに対して市が「できない理由」をあげつらつてくれて、参加委員に対して見事に悪い見本を見せてくれたようです。このようなことでは「国連・障害者権利条約」の批准にはほど遠いような気がします。

さて、その障害者権利条約では障害者に対して合理的配慮（reasonable accommodation）を欠く状況を差別と規定しています。最近、リーズナブルという日本語がよく使われるようになってきましたが、本来の意味とは違って「安価」であるかのように扱われていることが多いように思います。また、合理的という訳語も本来の英語の意味とは少しずれているようです。

以前、東洋大学前教授の北野誠一先生が話されていたので、英英辞典で調べてみると、reasonable には本来の rational（道理に

かなった）の他に、fair（公平）というニュアンスもありました。障害者権利条約においては、私たちはこの「公平」の意味を意識していくことが重要ではないでしょうか。

そして、このことを入学拒否事件に当てはめてみると、公平な教育を受ける権利が損なわれているということになります。奈良県の当該自治体に地域自立支援協議会があったとしたら、この事件は格好のテーマになります。また、もし協議会がないのなら、すぐにでも立ち上げて、地域の知恵を出し合うべきです。



障害者の声をもちよ

聞いてよヘルパーさん

障害者情報クラブで、六月と十一月に
勉強会を開くことになりました。

（次回は、十一月八日（日）です。）

『アットホームなーしセンター』

大友 ともみ

六月十一日、梅雨の中休みだったのか、夏の日差しのような暑い一日、『障害者情報クラブ ーしセンター』の勉強会でお話をさせていただきました。大友です。

まず、びつくりしたのは中山寺駅に迎えに来ていただいたメンバーの方々が、以前通いで行ったピアカン講座を受けていただいた受講生の方達だったのです。ピアカン後、ーしセンターとの繋がりを持たれ、楽しい集いをされておられる様子を覗いてうれしく思いました。

障害も様々な方達なので、お互いに助け合っておられる雰囲気がつともいい感じでした。講座の方は活躍中のヘルパーさん達を前に、かなりドキドキでしたが、井上議員のサポートもいただき、何とか私の思いを少しは伝えられたかと思っています。

障害を持ちながら自立生活をしていくには、ヘルパーさんは不可欠な存在です。

信頼関係が出来るまでには時間もかかる仕事ですが、お互いに歩み寄る姿勢と理解し合える関係づくりを心に持ちながら、地域で当たり前に暮らしていけるよう、私たちへのサポートをこれからもお願いします。

みなさん、下手な話を聞いていただきありがとうございます。



ヘルパー研修で思うこと

中山 君江

ぶらざこむで六月十一日(木)に障害者情報クラブ主催、(特)とことこ協賛で勉強会が開催されました。とことこヘルパー研修も兼ねております。

講師に豊中の大友ともみさんをお迎えし、本音トークで「介助者との関係」「日頃の生活内容」「障害者の思い」などを語っていただきました。

対談のコーナーではコーディネーターに障害者情報クラブ代表の坂上正司さん、地域で暮らしている障害者の代表として古谷かおりさんにも参加していただき、「介助者への希望」「1人暮らしの思い」について対談して頂きました。

大友さんのお話の中で道路の真ん中を電動車椅子で歩いていると言われていました。「歩道より安全ですよ、なまじ端を歩くと車から見えない、その点、真ん中は運転手からよく見えるからかえって安全」だそうです。確かに一見安全と思われることが危険なこともあり、危険と見えることがその人にとっては安全なことが多々ありますね。もちろん場所と状況によりますが・・・。

多分聞いておられた人の中には歩道が危険と言われたとき、びつくりされたと思います。

私の経験ですが、やたらに狭い歩道があります。

全盲の私にはヘルパーさんや盲導犬と一緒に歩くとき、幅がせまくて横に落ちそうになる歩道、おまけに斜めになっている歩道、

こんもり盛り上がっているような歩道、垣根が道半分出てそこから車道に下りなければ歩けない歩道がたくさんあります。時には歩道の真ん中に樹木や電信柱があり、やつぱりそこから車道に下りてまた歩道に戻ります。降りる時の段差は歩道によってちがいます。

私は車道と歩道との段差は降りられますが、電動車椅子では降りられない段差もあります。

道幅の狭い所はバックでもと来た道を戻らなければなりません。道は斜めでとても危険です。

歩道は本当に安全な歩きやすい道であつたらなあといつも願っております。

まだ盲導犬と歩いておらず、車道側にボランティアさん反対側に私 で歩いていたとき、車より痛くて怖いものがありました。垣根の枝でしたね。弓なりになっていて、顔や手にムチのように私を攻撃してくるのです。まだ私が視力障害者になって間のない頃でした。(まだ無口なときでした) そのとき、車道側が必ずしも危険とは言えないなあと感じました。

宝塚市の福祉サービスに思うこと

古谷かおり

宝塚市で一人暮らしをはじめて、八年目。思えば、全国的な福祉制度が二転三転と変わってきた時期とともに過ごしてきた。

宝塚市は、近畿でも一位、二位、三位に入る、福祉の進ん

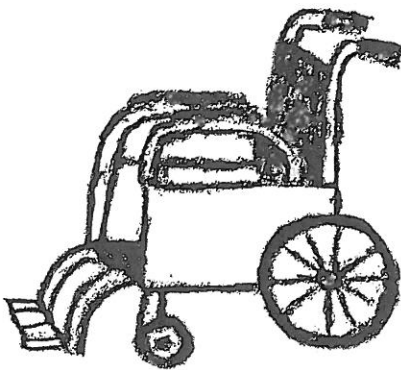
る地域らしい。

福祉制度の名前がころころと変わっていった時期は、行政・事業者・利用者それぞれの立場で混乱が起こっていたが、そんな中で、自己負担金・サービス支給量などに対しての不安な点や不便な点も、当事者団体もしくは個人で声を上げてきたことで、改善もされてきた。「障害者自立支援法」や「街のバリアフリー」について、団体または個人的に、私も私なりの訴えかけ方(話し合い)をしてきた。

今、宝塚市に一番望むことは、入院したときに、ヘルパーに介護を受けられる制度の確立だ。

障害者が地域の中で、その人らしく生活していくためには、協力機関などに、ことあるごとに諦めないで言っていくと、いつか良い方向に変わっていく。

どんな関係であっても、人間同士、いろいろな感情も入ってくるが、それぞれの立場に立って、話し合えることが大切だろう。



古谷かおりさんの
作品です

☆ 講演会に行ってきました！

黒田久雄

「とことこ」の事務局では、浜田きよ子先生の講演会「排泄ケアが暮らしを変える。」平成二十一年四月九日（木曜日）夕方六時から川西能勢口のアステホールに行きました。

§一、紙オムツについて

施設内で問題となる男性利用者に対する尿取りパットの効果的な使用方法や尿漏れ部位の傾向の説明があり、立体式紙オムツ本体の結束部位の詳細説明はモデルを使い、わかりやすく、今後の参考になりました。

寝たきり介護の場合は平面式の紙オムツによる迅速な交換作業と、局所への通気確保が有効に思われました。理想的な装着環境においても、オムツ内の蒸れは避けがたく、すこしでも生活レベルの向上を目指すには排泄や、オムツについての正確な知識が求められるものと思われました。

§二、排泄の体位について

排泄の体位については、一般的な座位排泄姿勢の解説を受けましたので、これも将来にわたり応用し得るテーマとして考えました。殊に今回の講演では便座使用時の体位についての詳細な考察

が得られました。当社の現況としては、排泄時における利用者の体位は障害の内容に従い多岐に渡りますので、それぞれに対応した相応の応用技術が必要であると改めて確認いたしました。

§三、在宅介護に於ける排泄介護にかかる問題点の解消

一般家庭の現状では、介護室内の臭気が問題になる事例があります。廃棄後の防臭剤の利用、防臭ダストポットの使用などが在宅時の対策になろうかと思えます。紙おむつの在宅利用については、特に高齢者の股関節骨折・脱臼について、ご家庭の主力介護者に特に注意を払ってもらい正確・安全な介助の勉強をしていただく必要を感じています。

今回の講演の目玉は、ポータブルトイレの介助における防臭と汚染防止のための新しい装置の紹介でした。凝固剤と消臭剤と専用ラップを組み合わせたいささか高価な装置であり、確かにランニングコストがかかりますが、高齢者介護の場面で多いポータブルトイレからの排泄物の臭いは防ぐことができるように思いました。ご家庭がコストに耐えうる経済状態であれば良いものかもしれません。ポータブルという触れ込みでしたが、ちょっと重いので、本体部分の持ち運びは、女性ではいささか困難に思われました。

今回は、講演の性格から、排泄介助にかかる利用者心理や褥創対策や解説についての時間は持てませんでした。オムツ使用についての基本的な用例など、たいへんわかりやすく、私たちの今後の介護技術の向上への基礎となりました。

吉原 裕子

彼（息子）が脳性麻痺であるとわかってから二十二年がたちました。養護学校の高等部も卒業して四年目になりました。一応、社会にでて社会人ということになっていますが、自立した社会人というには程遠いです。

彼にとつての自立とはなにか？考えれば考えるほど、自立の難しさに気付かされます。自立が生活のあらゆる場面を自分で考えて設計して生きていかななくてはならないとしたら、とても今の彼には自立などできそうにもありません。すべてを自分で考えて生きていくのが一番いいことなのはもちろんわかっていますが、自ら生活設計をするための能力（金銭管理、行動計画など諸々）を身につけるためには、まだまだ学習すべきことや経験すべきことが山のようにあります。漠然と親子で「自立できたらいいよなあ！」とは思っています。そのスタートラインにさえ到達できていないように思います。取り敢えず、学べる場所をみつけては学習しに行き、経験できそうなことがあれば出かけて行くことが、今の彼に出来る自立へ向けての歩みになっています。

いつ、どうしたら自立した生活に踏み出せるのかしら？誰がその時を決めるのかしら？…親としての私は時々その思いに駆られます。今日はヘルパーさんに任せて口を出すまい、これは彼に任せてみよう、と何かあるたびに自分に言い聞かせて彼を家から送り出す親としての私があります。これって超過保護なのかなあ？と思う反面、これぐらいのことを彼に任せられなくて何が自立を目

指すや！…と気持ちを奮い立たせている親としての私があります。かと思えば、「そんなことまでまだ彼に求めんといてよ！」と憤慨している親としての私があります。…えっ？…本当にそう？心のもつと奥ではもつと別の思いが渦巻いているようです。

任せよう、と思っているときには「これが彼に本当にできるって思ってるの？…親バカって思われてないかなあ？」と思つて憤慨しているときには「こんなことさえ任せられないの？…って思われてないかなあ？」と思つている親としての私があります。

結局、歌舞伎の黒子のように彼の少し後ろで（いえ、もしかしたら真横で…）彼の代弁をしたり、彼がアクションを起こすのを待ち切れずに手を出している親としての私があります。もしかしたら、彼はこんなことを考えていないのかも…と思いつながら…。

いつか、どこかで、彼も親としての私も、お互いの一步を踏み出さなくてはいけない時が来るのはわかっています。でも、どうやらまだまだお互いにその時には至っていないようです。もしかししたら、お互いに自ら踏み出すのは無理かもしれません。

そうせざるを得ない状況になって始めて、誰かに無理矢理？引き離されなければ、その時はやつて来ないかもしれないでも、出来ることならば自らの意思で自立した生活を彼が送れるようになっていたい私たち親子です。

どうぞ、あきらめないで、あったかいまなざしで私たちを見守っていてください。……ヤッパリ 超過保護な親なんや！…って思われているかなあ？とビクついている親としての私です。

トライやるウィーク（宝塚市立山手台中学校）

ILセンターさんへ

松塚 喜耶

ILセンターに行っているいろいろな事を体験させてもらいありがとうございます。ありがとうございました。

一口に障害者と言っても内蔵障害や、神経の障害などいろいろなものがあることを教えてもらい大変になりました。

最初の掃除のときからどんどん人が増え、十人ほどのおしゃべりは、とても楽しかったです。

昼ごはんの時は、障害者の人があんなにつらいとは、まったく知りませんでした。

パネルの素材作りでは、色紙の中からどんな色を使えばきれいになるかを考えながら切るのがとても楽しかった。

昼ごはんの時にいただいた、大根の葉っぱのふりかけやきゅうりの塩もみなどは、とてもおいしかったです。

吉原さんのドラゴンボールの話もとてもおもしろかったです。

新商品の開発にも加えていただいてみなさんと一緒に新商品を考えるのは、とてもおもしろかったです。

僕たちのために貴重な時間を割いていただいて本当にありがとうございます。ありがとうございました。

またバザーの品を買いに行くのでそのときは、よろしくおねがいします。

障害者情報クラブILセンターのみなさまへ

今井 智子

一日だけしかありませんでしたが、本当にありがとうございます。最初は、ちゃんと介助ができるかどうか心配でした。でも、介助することで大変なことも知りました。

障害者の車いすを押すとき、気をつけて押していけないし、障害者の食事の介助もとても大変でした。なので、いい経験になりました。

デザインを考えたり、作ったりするのが、とても楽しかったです。デザインや、絵を描くのが好きだったので、役にたててよかったとおもいました。

デザインを考える前、どんな絵を描けばいいか困りましたが、あの絵で喜んでくれてよかったと思っています。

あと、朝のおそうじとかが大変だったです。外のおそうじや、中のおそうじに、二階の部屋のおそうじとか大変でしたが、とてもいい経験となりました。いろいろな話をしたり、写真を撮ったりと楽しんでくれたので、いい思い出になりました。

障害者と買い物をしたり障害者といっしょにお弁当を食べたり、きゅうりを使った料理を食べたり、障害者の方が作ってくれた大根の葉っぱで作ったふりかけをご飯にかけて食べたり、デザインを考える時、とくせいのドリンクジュースを作って飲んだりとかして、とてもおいしかったです。

短い間でしたが、本当にありがとうございました。

ILセンターの皆さんへ

白崎 健太

ぼくは、この体験をさせてもらって、とてもうれしく思っています。

この経験をこれからの生活にいかしていきたいです。
お世話になりました。ありがとうございました。

障害者情報クラブILセンターの皆さんへ

西村 厚祐

貴重な時間をわざわざ使っていろいろな事を教えていただいた
ありがとうございました。

障害者の方の介護の中で一番、印象にのこっているのは、やはり
昼ごはんの手伝いです。

やった事がないから、すごくとまどいました。相手にごはんを
食べさせるのは、すごく大変なんだと思った。

障害者の方の食べるスピードなどをみながら自分の弁当を食べ
るのもすごく大変でした。

次到大変だったのは、車いすを押すのでした。ふつうの人なら
なんでもない道でも車いすに乗っていたら、すごく揺れてるので
気をつけないといけない。そういうことがわかりました。

1日という間でもすごくいろいろなことが学べました。



さよなら！障害者自立支援法つくろう！

私たちの新法を！全国大フォーラム

一〇・三〇全国大フォーラム実行委員会 (日本障害者協議会)

日時：二〇〇九年一〇月三〇日(金) 正午開会

(十一時開場)

場所：日比谷野外音楽堂↓国会と東京駅方面にデモ行進

(予定)

政権交代が実現し、いよいよ障害者自立支援法の廃止、新しい法律の制定が現実化してきました。

二〇〇四年から始まった私たち全国大行動の運動も、この五年間の成果がいま実現しようとしています。

本当に自立支援法は廃止できるのか？

私たちの意見を盛り込んだ新しい法律は創れるのか？

それは、私たち自身の運動にかかっていると思います。

これからが正念場です！

力を結集して、取り組んでいきましょう！

今年も、一〇月三〇日に大規模な行動を企画しております。

ぜひ、ご参加頂きますようお願いいたします。

プログラム案

十一時三十分 オープニング・ミニコンサート

十二時 主催者あいさつ 来賓・連帯あいさつ
(厚労大臣、反貧困ネット、

障害者自立支援法訴訟原告)
集会アピールなど

十二時 政党シンポジウム

十四時一〇分 シュプレヒコールなど
閉会あいさつ

十五時 デモ出発

一〇・三十 全国大フォーラム実行委員会
障害者の地域生活確立の実現を求める全国
大行動実行委員会のホームページより

とことこヘルパー募集

登録ヘルパーを募集しています。

ヘルパー2級以上をお持ちの方。都合のいい時間に入れます。詳しくお電話でお問い合わせください。

【営業時間】

月曜日～金曜日 10時～17時

祝日、年末、お盆は、休ませて頂きます。

障害者情報クラブ介護支援センター

とことこ 代表 中山 君江

〒665-0035

宝塚市逆瀬川一丁目一 四六 なみきビル105号

TEL 0797(七七) 九二九〇

品 商 一 ザ バ い 願 お の 供 提 ご

ご家庭で眠っている品物等がありましたら、ご提供お願い致します。
ご連絡いただければ幸いです。お受け取りにも、お伺いいたします。

用品	キッチン用品	インテリア小物	服飾雑貨	衣料品 (新品)
石鹸	食器	花瓶	ベルト	レディース
シーツ	タッパー	民芸品	バック	メンズ
タオル	鍋	時計	手芸小物	

(バザー 参加 年間イベント)

☆宝塚市障害者記念事業 ☆長尾のつどい (宝塚地域まつり) ☆フレミラ秋祭り

ご連絡は、ILセンターまで
宜しくお願い致します。

〒665-0882 宝塚市山本南2丁目6-5
TEL&FAX 0797-82-2233

西公民館の自動販売機をご利用ください

宝塚市立西公民館（阪急今津線小林駅から徒歩2分）の三階・レクルームBの前に設置されている大塚製菓の自動販売機は、管理のジャパン・ビバレッジ（旧・ユニマツト）のご協力により収益の一部が障害者情報クラブの運営費として一九九四年四月より寄付されています。しかし、三階のわかりにくい場所に置かれているため、なかなか売り上げがあがらず、収益が伸び悩んでいます。みなさん、西公民館をご利用の折には、是非、大塚製菓の自動販売機をご利用いただき、当クラブを応援して下さい。

☆ 事務局より

バザー用品を下さった方々、

ありがとうございました。

今後とも、よろしくお願い致します。

NPO法人とことこニュース

編集人 NPO法人とことこ

所在地 〒665-0882

兵庫県宝塚市山本南2-6-5

NPO法人とことこ障害者情報クラブILセンター

TEL&FAX 0797-82-2233

E-MAIL sjcil@hotmail.co.jp

郵便口座 14360-43110611 障害者情報クラブ

銀行口座 三井住友銀行 逆瀬川支店 普通 3566211

障害者情報クラブ